

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

F-FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

〔特集〕 Come & Do! クマデジ
～クマンドウデジタルアライブ 2025～

vol.73

現場の声を最優先に取り入れて、DXで和紙づくりの効率化を実現。



1500年の歴史を持つ越前和紙の産地 越前市で、和紙製造業を営む山伝製紙株式会社。明治初年度に創業後、伝統的な手漉き技法を機械化し、多彩な和紙を製造しています。従業員の高齢化が進むなか、2020年、作業の見える化による効率化を促すべくDXに取り組みました。8代目の山口真史氏に、導入の経緯と今後の展望について伺いました。



山口 真史 氏

DATA

山伝製紙株式会社

所在地：越前市南小町13-23

代表者：山口 和弘 氏

事業内容：機械抄き和紙および機能紙の企画・製造

連絡先：0778-27-1556

URL：https://www.yamaden-seishi.com/



同社HPはこちら！

同社は古くからある和紙の技法「ひっかけ」をはじめ多彩な伝統的技法の機械化に取り組む、機械と人の手技を組

「コロナ禍が始まる前に、自分が製造ラインを管理するようになり、工程の見える化をしようと考えたのがDX化のきっかけです」と振り返る山口氏。

近年、長い歴史を誇る伝統工芸の製造現場でも、DXの導入が進んでいます。明治元年に創業した同社は、2019年にふくい産業支援センターのDXオープンラボ（当時AII・IOTオープンラボ）主催のIOT研修を受講。その後、同ラボの相談員と検討を重ね、令和元年度IOT・AII・ロボット等導入補助金を活用して、webデータベース型業務アプリ構築クラウドサービス「Kintone」を主体としたシステムを開発・導入しました。

工場見える化を目指し補助金でシステムを開発

開発にあたり「ほぼ無限にある」という製造工程のバリエーションから10種類をピックアップしパターン化。それ

社員の声を画面に反映し開発と同時進行で導入を

「従来は紙の伝票を次の工程の担当者へ回すやり方でしたが、無駄が多くて生産性が低く、進捗状況がわからないなど課題があり、システム化でスムーズな生産ラインの構築と管理の効率化を目指しました」と語ります。

み合わせた越前機械抄き和紙を製造しています。オーダーメイドによる多品種小ロット生産が多く、その都度、製造工程や機械にかける順番が変わってくるといいます。

をベースに事務所のパソコンで受注入力を行い、工場生産計画を作成して、各工程に置いたタブレット端末で製品ごとの作業状況を入力できるシステムを構築していきまし

Contents

Web版はコチラ！

表紙クマンドウベース(コウキングスベース)

特集 Come & Do!
クマデジ

- 1 【CASE①】 山伝製紙株式会社
- 3 クマンドウデジタルライブ2025のご紹介
- 5 【CASE②】 株式会社Better WEB
- 6 【CASE③】 越前市ぶらぶらぼ
- 7 今月の注目企業 (株)HAQTSUYA
- 9 よろず支援拠点 経営Q&A
- 10 総合相談窓口からのご案内
- 11 ふくいDXニュース
- 12 こんにちは！ FOIPです。
- 13 グッドデザインシンキング
- 14 インフォメーション／編集後記



現場の声を生かし視認や操作のしやすさを追求



増築を重ねた広い工場。今は貴重な和紙づくりの型も残る

しかし、現場で働く高齢の従業員は従来の伝票に慣れがあり、システム化に「何の意味があるのか」との声もあが

りました。そこで、山口氏は現場の声を最優先するべく、試作中のタブレット画面を従業員に見せ、意見を集めるこ

とに。「文字の大きさや色の配分など、週に1回程現場の声を聞き、改良してもらうことを繰り返しました」と取り組みを語ります。

さらに、開発と同時進行で、現場へのシステム導入に踏み切ります。「約1年間、伝票と開発中のシステムを並行して使うことで、移行がスムーズに進みました。若い従業員は早い段階でタブレットの方を使うようになり、高齢の従業員が若い人に使い方を聞くなど、社員間のコミュニケーションも増えました」とほほ笑みます。

QRコードによる在庫管理も導入し、2020年から本格的にシステムを稼働。当初の目標である生産性や効率化の向上に加え、近年は意外なメリットも感じています。「ここ数年、価格改定をさせていただく機会が多いのですが、製品ごとの費用がシステムでわかるので適正な見積り価格を提示できます」と真摯に語ります。

意欲的にデジタルを活用 大阪・関西万博に出展も

「システムの導入で計画的な生産活動が可能になり、納期短縮や人材評価にもつながっています。1日の仕事量が把握できるので残業がほぼなくなるなど働き方改革にもなりましたし、新しく入社した従業員の教育にも活用しています。また、システムを使って工場内の温度・湿度がおよぼす製品不良率への影響を調べるなど、品質向上にも役立っています」と成果を語る山口氏。今後はシステムを用いた勤務管理を検討中

で、動画による熟練の技の伝承にも着手するなど、デジタルの活用在意欲的に取り組んでいます。「これからの課題となる高品質短納期や副業を持つような新しい働き方などでも、ふくい産業支援センターさんのさまざまな支援を活用させてい

ただきたいですね」と熱を込めます。

同社は今年10月、「大阪・関西万博」で日本の中小企業を紹介する体験型展示に、廃材を原料とした紙を出展することでも注目を集めています。「SDGsが話題となった頃から、循環経済を意味するサーキュラーエコノミーとして、電車の中吊り広告や食品廃棄物などの廃材を原料にした紙づくりの受注が増えています」と山口氏。DX化による確かな生産管理と製造工程のもと、幅広く挑戦を続けています。



日本酒のラベルや包装紙などの製品を手がける



デジタルを学ぶ! デジタルで遊ぶ! 4日間

**デジタルをテーマに
「クマンドウ デジタルアライブ2025」を開催します!**

デジタルの“いま”を紹介するイベント「クマンドウ デジタルアライブ2025」を、今年は9月25日(木)～28日(日)の4日間にかけて、福井県産業情報センターで開催します。

昨年、福井県産業情報センターの開設30周年を機に生まれかわった「クマンドウ デジタルアライブ」はおかげさまで2000人を超える方々にご来場いただきました。今年も30を超えるセミナーや体験イベントなど学んで遊べるイベントを用意して、皆さまのお越しをお待ちしております!

イベント前半「ビジネスSIDE」の25日(木)・26日(金)は、ビジネスでのデジタル活用に役立つ特別講演会やセミナーを中心に開催し、イベント後半「おもしろSIDE」の27日(土)・28日(日)はデジタル時代の起業に関するトークセッションや個人スキルの習得研修、親子で楽しめるプログラミングやデジタルアートの体験会などがあります。

デジタルを学び、遊ぶ(=体験する)4日間。多数のご参加をお待ちしています!

名 称 クマンドウ デジタルアライブ2025 [クマデジ]

会 期 令和7年9月25日(木)～28日(日)

会 場 福井県産業情報センター

内 容 デジタルやDXに関連したセミナー・講演会やワークショップ、体験会など

**参加
無料**

- デジタルを学ぶ講演会・セミナー
- プログラミングやRPAなどを学ぶワークショップ
- 動画編集やSNS活用の知識を修得できる研修会
- 生成AIやAR体験コーナー
- デジタルで遊ぶeスポーツやデジタルアート体験など
- オープニングコンサートやキッチンカーも毎日やってくる

開催イベントの一例をご紹介します！いずれも参加無料

9月25日(木)

会場&オンライン同時開催

基調講演

「生成AIとノーコードが牽引する 新たなDXの世界」

〔講師〕アステリア(株) CXO (最高変革責任者)
(一社)ノーコード推進協会 代表理事

中山 五輪男 氏

急速な進化を見せる生成AIと、業務の現場でも扱いやすいノーコードツール。

この2つの技術は、中小企業が自らDXを牽引する時代を、現実のものにしつつあります。

生成AI時代の人材像、現場と経営をつなぐ仕組みづくり、そして県内中小企業でも始められる取り組みとは何か――

技術と組織、両方の視点から“自分たちのDX”を語り尽くします。

特別講演

「町工場がつくる、 デジタル時代の『共創力』」

〔講師〕(株)浜野製作所 代表取締役CEO

浜野 慶一 氏

試作支援や技術協力を通じ、スタートアップの「アイデアをかたちにする」パートナーとして走り続ける浜野製作所。町工場だからこそできる共創とは何か。現場の声と挑戦の裏側を、デジタル化の流れと重ねて紹介します。地域の製造業が“自分ごと”としてDXに向き合うための気づきが詰まった講演です。



ビジネスSIDE

企業経営や業務で活用できるITツール・デジタル技術のセミナー等を集中開催！

9月26日(金)

「ゼロから学べる生成AI活用術！ ECサイトで成果を最大化する方法」

主催 どっと混む福井

★参加者特典：すぐに使えるプロンプト進呈

「シミュレーションを活用したデジタルものづくり」

主催 (国研)産業技術総合研究所

金属3Dプリンタの研究事例を紹介します。

「“自らがあたかもそこにいるように”を 実現するテレプレゼンスロボット」

主催 NTTドコモビジネス(株)

おもしろSIDE

一般・学生の方や親子で参加される方に！ 楽しくデジタル技術に触れる2日間

9月27日(土)

「好きが仕事になるとき～ゲームをキャリアにする方法～」

主催 (株)GamingD

“ストリーマーを文化に”を掲げ、数多くのストリーマーを輩出

「ずんだもんで発信力アップ！

～サークル・部活の想いを動画で伝えよう～

主催 SCSKニアショアシステムズ(株)

人気キャラクターずんだもんと無料編集ツールを使い、1分告知動画をゼロから制作！

9月28日(日)

「親子でためしてみよう！かんたんゲームプログラミング」

主催 福井工業大学

子供向けプログラミング環境「スクラッチ」を使って、簡単なゲームを作ってみよう。

「VTuber インフォメーション」

協力 (株)glow／越前市

越前市公認 VTuberの『若紫まい』と『紫式部』が会場入口でお出迎え。VTuberによるビンゴ大会も開催します！！



開催イベントの情報は順次【追加・更新】していきます。

【最新情報や参加申込はこちら】

クマンドウ デジタルアライブ2025特設サイト

<https://www.fisc.jp/kumadigifes/>



Instagram



AIを活用して 生産性向上を狙う

大野市でWEB制作事業を行う、(株)BetterWEB。大手IT企業に10年勤めた経験を生かし、2020年に同社を設立し、ITに親しみを感じてもらえるよう支援業務を行っています。9月26日のセミナーにもご登壇いただく、代表の道下 宏一氏にお話をうかがいました。



おもにWEB制作事業と販路促進支援事業をやっていた同社は、二年前からAIを活用したチャットボット制作やAIの活用方法を研修するリスキリング事業を始めました。「AIを使えば簡単に効率化が図れ、人手不足の解消も期待されます。今こそChatGPTなどのAIツールの発展で、より身近なものへとなりましたが、働く現場へ導入するためのAIの扱いの困難さなどからハードルを感じている方も多く、AIを使って生産性をあげた事例を紹介することで少しでも業務改善の糸口になればと思っています」と道下氏。限られた時間の中でAIをどう活用するか、経営者だけでなく従業員にも当事者意識をもって見つめ直すきっかけになると話します。

地元大野から デジタル活用支援を



代表 道下 宏一氏

9月26日にはセミナー 「中小企業における生成AIの 活用事例」を開催

道下氏は前回に引き続き今回もイベントにてセミナー講師を務めます。今回のテーマはおもに事務員向けに実務で活用できるAIツールについて、同社での事例を踏まえて話したいと語ります。「例えば、OCR（画像データを文字データに変換する機能）にAIを組み合わせたツールがあります。そのツールの利便性や使い方について解説する予定です」。続けて、昨今の人手不足の状況下では新たな人材が来たとしても教える人材がいけないという課題が浮き彫りになるとし、働き手が多様化する現在ではその負担がさらに強まると道下氏は訴えます。「会社にとって、業務内容を教える人間は業務に関してのエキスパートであり、自社の業績につながる業務に携わってもらいたい存在ですが、教育に時間を割くことでその機会が



昨年度のセミナーの様子

失われてしまいます。教育面でもAIは有効であり、仮想社員をつくりあげ、チャットボット化したAIが新入社員にマニュアルを教えるという事例についても皆さんと共有できればと思います」。

AIと共生する社会に向けて

今回のセミナー以外にも行政書士会や商工団体など多数のセミナーに登壇してきた道下氏ですが、その中で嬉しかった点について尋ねると、「AI研修の受講者から自社に置きかえた質問が生まれ、最終的には自分たちの現場で自走して果立っていく姿が一番嬉しいんです。企業自らが勉強してもらって僕がいらなくなる場面が増えるのがゴールかな」と道下氏はうなずきました。

DATA

株式会社BetterWEB

所在地

大野市土打71-14

代表者

道下 宏一氏

事業内容

WEBシステム開発、AI研修及びAI活用支援

連絡先

0120-847-299

URL

<https://betterweb.co.jp/>

同社HPは
こちら！



ARとデジタルアートで地域を元気に

越前市にある市民団体「越前市ぶらぶらぼ」は、見て触れて楽しめる体験型デジタルアートを制作・展示しています。その代表・仲野弘修氏は、市職員としてAR技術を活用した文化財展示にも取り組んでおり、今回のイベントでは、仲野氏が市職員として出展する「AR文化財体験」と、市民団体としての「プログラミング花火」の両方を楽しむことができます。ここでは、9月27日・28日の企画に向けた準備の様子をお届けします。



「AR文化財体験（クラフター）」。見るだけでなく、自分でつくることができる。楽しさも味わえます。



使用するのは、簡単にAR制作ができるオープンソースツール「craftARt（クラフター）」。見るだけでなく、自分でつくることができる。楽しさも味わえます。

AR文化財体験（27日）



代表 仲野 弘修 氏

「プログラミング花火（28日）」。

「プログラミング花火（28日）」。

「プログラミング花火（28日）」。

「プログラミング花火（28日）」。

「プログラミング花火（28日）」。

越前市ぶらぶらぼ
 所在地 越前市稲寄町15-1-1
 代表者 仲野 弘修 氏
 事業内容 デジタルアートの制作、体験教室
 連絡先 nknhb966@gmail.com
 URL https://pulapulabo.jimdofree.com/

同社HPはこちら！



「プログラミング花火（28日）」。

「プログラミング花火（28日）」。



今月の注目企業



畑 昂志氏



代表 小川 尚樹氏

売上と魅力向上を両立する支援力 地域経済を動かすふるさと納税戦略

株式会社HAQT SUYA

全国12自治体のふるさと納税を支える株式会社HAQT SUYA。株式会社博報堂との提携やAI活用で返礼品開発から販路提案、品質管理まで総合支援し、地域と全国をつないでいます。ふるさと納税事業の展望について代表取締役CEO小川尚樹氏にお話を伺いました。

地域の可能性を発掘する ふるさと納税事業を分社化

「株式会社HAQT SUYA（以下、ハックツヤ）」は、地域の魅力ある産品と全国の寄付者をつなぐ架け橋役として、ふるさと納税中間事業の中でも存在感を示している企業です。当初、株式会社大津屋の一部門として寄附受付や返礼品の提案、発送支援などを行ってきましたが、より専門的かつ持続的に事業を推進するため、今年4月に分社化し、新会社として設立しました。もともと株式会社大津屋が、福井市観光物産館「福福館」の出店をきっかけに食

以外にも工芸や新たな商品を手がけたことで、「ふるさと納税」による地域活性化の可能性が見え事業化したことが発端です。2020年秋に坂井市、続いて敦賀市からふるさと納税中間事業者として業務委託を受けて事業を開始し、現在では全国12の自治体をサポートしています。

博報堂との提携で 返礼品の総合支援に着手

同社がふるさと納税を通じて自治体・事業者の希望と現状、利用者の意識に触れるにつれ、「もつと地域経済の活性化につながることはでき

ないかと」と思いが強まったといいます。代表取締役CEO小川尚樹氏は「地域には優れた商品が多くありますが、コンセプトやパッケージデザインが弱く、リブランディングが必要だと感じました。自治体はふるさと納税をシティブロモーションに活用したいと考えており、その発信力をもっと高めたいと思いました」。そこで今年6月、生活者視点のマーケティングやブランド開発に強みを持つ博報堂と資本業務提携を締結。返礼品の開発支援や販路の提案、ブランディング、情報発信まで総合的なサポート体制を整えています。

株式会社HAQTSUYA

所在地：福井県坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16

福井県産業情報センタービル6階(福井オフィス)

代表者：代表取締役CEO 小川 尚樹 氏

事業内容：ふるさと納税業務代行(自治体向け)／
事業コンサルティング(事業者向け)

連絡先：050-3612-7506

URL：https://haqtsuya.com/

同社HPは
コチラ！



AI活用で業務効率化を推進 寄附者・事業者向けサービスを強化

同社の大きな特長は、AIを積極的に取り入れている点が挙げられます。最初に手掛けたのは寄附者向けの返礼品を検索するサービスでした。返礼品が120万点に達し、寄附者が自分に合った返礼品を探しにくくなってきているという課題に対し、AIに活路を求めました。そこでAIチャットで会話するようにキーワードを入力するだけで、全国の返礼品を閲覧できるサービス「AIふるさと納税コンシェルジュ」を開発・公開。さらに、価値ある地域の逸品を価格や割引ではなく本質的な魅力で伝えるネットメディア「ふるさとタイムズ」も立ち上げました。

一方、属人的になりやすい業務を平準化し、効率化する事業者向けのAIシステム開発にも着手。ふるさと支援事業部長

畑昂志氏は「事業者向けの相談窓口と自動応答機能を備えた支援システムを開発中です。また博報堂との提携

あなたにぴったりの
ふるさと納税のお礼の品が
きっと見つかる



さらにもっと詳しくお問い合わせください

お問い合わせはこちら

お問い合わせはこちら

ふるさと納税で築く 事業者との持続的なつながり

ハックツヤがふるさと納税事業を通じて得た最大の成果は、事業者と

を生かし、AIによるデータ分析や資料の作成を行えば、自治体への提案営業もスムーズになります」と語ります。社内でも、ふるさと納税のポータルサイトごとに異なる規格やデザインに任せでばらつきがちだったバナーなどがあり、AIを使って統一感のあるビジュアルに仕上げる仕組みづくりも検討しています。

さらに、ハックツヤが事業者支援の中で重視していることとして、正しい食品表示と衛生管理があるといえます。「返礼品にはアレルギーや産地の表示が事業者ごとに異なり、時には基準が守られていないケースも。当社では適正に表示されているかを社内ではチェックし、必要に応じて是正を促しています。これらは長年、オレンジBOXなどの店内調理のお弁当・惣菜の提供で培った食品表示と衛生管理のノウハウがあるからこそ」と小川氏。現在、適正確認から修正提案までの業務もAIシステム化に向けて開発中です。

の継続的なつながりです。「ふるさと納税をきっかけに出会った生産者やメーカーとの関係性が広がり、新しい商品を仕入れることで大津屋の売り場もより豊かになり、地域の魅力が消費者に届けるチャンネルが広がりました。こうして築かれた信頼関係は大きな資産です」。また、制度変更や天候不順といったリスクを事業者と適宜共有しながら、負担を抑えて販路開拓やテストマーケティングに取り組める強みも伝えています。

「ふるさと納税は、単なるモノではなく地域を応援する気持ちが原点」と同社は語ります。「ハックツヤと一緒に取り組めば売上にもブランド価値向上にもつながる」と事業者に評価され、信頼できるパートナーとして選ばれる存在を目指しています。



前身の株大津屋から独自に事業者向けの勉強会や表彰式を開催している

よろず支援拠点 経営Q&A

フレームワークを使っの効率化

フレームワークはビジネス等の課題解決に向けての思考や情報整理を効率化する手法で、適切な活用は事業運営に効果的です。今回のご相談者には、フレームワークの可能性と事業計画作りのご助言を行いました。

◎フレームワークの歴史

フレームワークは20世紀初頭の製造業やプロジェクト管理の効率化から始まり、1960年代には**SWOT分析**などの戦略立案手法が登場し、その後マーケティングや経営戦略の枠組みとして発展しました。

21世紀に入ると**ブルー・オーシャン戦略**や**ビジネスモデルキャンバス**といった新しい枠組みが普及し、AIやビッグデータの進展により、従来のフレームワークに機械学習によるデータ分析を組み合わせる動きなども広がっています。

フレームワークの本質は「要素」と「関係」を整理し、問題解決や意思決定を支援する点にあるため、今後はデータに基づく意思決定と柔軟な思考が組み合わせることで、より高度な戦略立案を可能にする進化が期待されています。

◎フレームワークの定義と役割

フレームワークとは、特定の課題や目的を解決するための「枠組み」や「構造」を意味し、思考や行動を体系的に整理・可視化するためのツールとしてビジネスやITの分野で幅広く活用されており、複雑な問題を整理して論理的に分析する手助けをします。

基本的な役割は、①思考の整理、②効率化、③共通認識の形成、④客観的分析、⑤成果最大化といったもので、ビジネスではマーケティング戦略や経営戦略の立案に、ITではソフトウェア開発の効率化に活用されています。

◎ビジネスにおける活用と効果

ビジネスフレームワークは、課題解決や意思決定を効率的に行う「型」として利用されます。代表的なものに質問にもあった**SWOT分析**があり、企業の強みや弱み、外部環境の機会と脅威を整理し、戦略の方向性を明確にします。

その他、**3C分析**では顧客・競合・自社を比較し、市場での立ち位置の把握、マーケティング分野では**4P分析**や**4C分析**が施策立案に用いられており、これらのフレームワークは論理的思考を助け、意思決定の質を高めるだけでなく、チーム内での共通認識を形成し、スムーズな議論や協働を可能とします。



相談の概要

事業計画を作成する時にSWOTやバリューチェーン等のフレームワークを使うと便利だと言われたが、活用方法について教えて欲しい。

■ビジネス分野での活用例

SWOT分析	▶自社の強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) を整理し、SWOTそれぞれの組合せにより最適な戦略立案や課題解決の方向性を導く手法。 ・S-O戦略 (強みを活かして機会を最大化) ・W-O戦略 (弱みを克服して機会を活かす) ・S-T戦略 (強みを活かして脅威を回避) ・W-T戦略 (弱みを克服して脅威を最小化)
3C分析	市場環境を顧客 (Customer)、競合 (Competitor)、自社 (Company) の3視点から整理し、競争優位性や効果的な戦略立案の方向性を導く手法。
4P分析	製品 (Product)、価格 (Price)、流通 (Place)、プロモーション (Promotion) の4要素からマーケティング施策を整理し、効果的な戦略立案を行う手法。
4C分析	顧客価値 (Customer Value)、コスト (Cost)、コミュニケーション (Communication)、利便性 (Convenience) の4視点から施策を検討し、顧客志向の戦略立案を行う手法。
バリューチェーン分析	企業活動を主活動と支援活動に分解し、各過程が生み出す付加価値を明確化して競争優位性を探る手法。競争優位性を分析するのに役立ちます。 ※福井県『企業活動分析による収益力強化事業補助金』等に提示

その他、フレームワークを課題解決や意思決定を効率的に行う「型」とした場合、『5W1H』や『PDCAサイクル』、『ロジックツリー』、『ローカルベンチマーク』等も含まれます。

いずれのフレームワークについても活用にあたっては、常に変化する状況に合わせて見直し、柔軟かつ適切に活用することで、より効果的にビジネスを進めることができます。

ローカルベンチマーク (通称: ロカベン)

- ・ローカルベンチマークは、自社の経営状況や取り組みを財務・非財務データで可視化し、同業他社や地域の標準と比較して課題や改善点を把握する手法で、自社の強み・弱みを客観的に評価し、経営改善や戦略立案に活用できます。



お問い合わせ先



福井県よろず支援拠点

TEL : 0776-67-4702
E-mail : yorozu@fisc.jp





総合相談窓口を活用しよう!

総合相談窓口では、「経営革新計画」の事前相談を受け付けています。今回は、「中心部から離れた呉服店が呉服店×カフェで新たな挑戦」をテーマに経営革新計画を策定した「はやし株式会社」3代目の林 大貴さまにお話を伺いました。

着物を中心に地域を盛り上げる～後継者の熱い思い～

「計画を策定しようと思った動機は何ですか？」

着物を日常で着ることは少なくなっていますが、日本の伝統文化として世界に知られています。地域の若い世代に着物にふれる機会を作りたいと思い、父から事業を引き継ぐにあたり、カフェ『COFFEE IN KIMONO』をオープンしました。



自分自身の経験を家業に活かす

「計画を策定する際、こだわったことはありますか？」

呉服店の将来を考えると、自身の海外経験（オーストラリア等）から、“国際交流の場にもなるようにしたい”という思いが強くなりました。家業と地域の両立にこだわりを持ち、着物とカフェを掛け合わせることにしました。



市外のかたもくつろぐ場に。海外から友人が移住

「9月で丸1年になりますが、振り返るといかがですか？」

市外から来られるお客さまが増えてきました。また、海外の友人が移住してくるなど新たなコミュニティができつつあります。少しは地域貢献できてるのかなと思っていますが、もっともっと地域を盛り上げていきたいです。



企業情報

COFFEE IN KIMONO(コーヒーインキモノ)

【住所】坂井市三国町下野57-26 【電話】0776-81-3008
 【時間】9:00～19:00 【休み】木曜・祝日
 【公式アカウント】<https://www.instagram.com/coffee.in.kimono/>



支援機関(担当者)からの一言

海外から帰ってきたばかりの若者の覚悟をもったチャレンジを応援できたことは、経営相談員冥利に尽きることでした。引き続き、林さんに伴走して共に地域を盛り上げていくつもりです。新規事業の構想をお持ちの経営者さま、先ずはお近くの商工会に相談してください。お待ちしております！

(坂井市商工会：清水健太)

経営革新計画とは

中小企業等経営強化法に基づき福井県が承認

経営革新計画とは、中小企業が(1)「**自社にとって初めて行う取組**」(新事業活動)を行うことにより、(2)「**経営の相当程度の向上**」を図ることを目的に策定する中長期的な経営計画書のことです。

【事業期間】5か年程度(3～8か年)

【経営指標・目標】付加価値額：年3.0%以上、給与支給総額：年1.5%以上

電子申請：随時受付中

ふくい産業支援センターでは、「経営革新計画」の**事前相談**に応じています。事業継続力・成長力を高めることに繋がる計画策定は、「会社の将来あるべき姿や経営資源の現状」をあらためて認識する良い機会でもあります。

「事業構想の初期段階」から「申請書のブラッシュアップ」まで、申請手続きの準備をサポートします。



総合相談HP

今回は、飲食店のバックオフィス業務を見直しし、ノーコードツールを活用して自社アプリを内製化した、株式会社五目亭（福井市）の事例をご紹介します。

ノーコードツールを学び、紙中心の事務作業を自作アプリで効率化

属人化や紙作業による業務の非効率が課題だった同社は、ノーコードツールを学び、自社で業務アプリを開発。年間300時間の作業削減を見込みつつ、接客品質の向上や次なるDX推進に向けた足がかりを築いています。

属人化していた紙業務の効率化に挑戦

福井市と坂井市でラーメン店・蕎麦店を4店舗運営する同社では、これまで売上日報や勤怠管理を紙に記入し、FAXで本部へ送付、その後Excel入力して確認するという手法が続いていました。毎日の作業には約1時間50分を要し、事務作業の負担と属人化が大きな課題となっていました。

五十嵐取締役は「費用や優先度の面で後回しにしてきましたが、改善をあきらめるわけにはいかない」と振り返ります。そこで、ふくい産業支援センターから紹介されたノーコードツールの教育プログラムを受講し、業務効率化に挑戦することとなりました。

ノーコード教育で現場に合った営業日報アプリを自作・運用

五十嵐氏は、アプリ開発の知識がない状態からスタートしましたが、教育プログラムを受講し、約2か月で営業日報と勤怠管理アプリを自作しました。入力には従業員が日常的に使用しているスマホ型端末を活用し、年配のスタッフに配慮して文字を大きめにするなど現場の状況に応じて、自作だからこその工夫を施しました。

現在は1店舗で試験運用を行い、従業員の声を反映しながら改善を継続。事務作業は1日あたり約110分から50分へ短縮され、年間で300時間の削減が見込まれます。削減された時間は顧客対応やサービス向上に充てられ、店舗運営の質的向上につながっています。

さらにPOSレジとアプリのデータをChatGPTで分析し、経営判断に活かす取り組みも進めています。



アプリ制作画面

成功体験を次のDX推進へとつなげる

業務アプリを自作できた経験が自信となり、同社では次のDX推進への意欲が高まっています。現在は、教育マニュアルを動画化して進捗を確認できる社内教育アプリや、紙のポイントカードをアプリ化し、顧客データを活用する仕組みづくりに取り組んでいるとのことです。

将来的には五目亭公式アプリの提供も目指しており、商品開発やサービス改善への応用も視野に入れています。

五十嵐氏は「アプリを自作できれば、課題を低コストで早く解決できます。今回の成功を次のDXに生かしていきたい」と語り、人間力を生かした接客とデジタル化を両立させた体験価値の高い店舗づくりを進めています。

会社概要

株式会社五目亭

業 種：飲食業
(ラーメン店・蕎麦店の運営)

所在地：福井市新保北1-409

H P : <http://gomokutei-group.com/sp/>



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター ベンチャー・DX推進部

TEL : 0776-67-7416 E-mail : dx-g@fisc.jp

事例Web▶
<https://dx.fukui.jp/case/>



ふくいオープンイノベーション推進機構 設立10周年記念講演会・技術展を開催

ふくいオープンイノベーション推進機構（FOIP）では、産学官金が連携して、県内企業の技術開発から事業化までを一貫して支援しています。

この度、FOIPでは、設立10周年を記念して、令和7年4月に講演会および技術展を開催しましたので、その内容を紹介します。

●記念講演会

最初に、『FOIP 10年の歩み』と題して、川邊FOIPディレクターから、10年を振り返り、県内のオープンイノベーションの進展、(国研)産業技術総合研究所や大手企業等との連携、重点的に支援している5分野（宇宙、炭素繊維、ヘルスケア、脱炭素、AI・IoT・ロボット）の活動等について紹介しました。

また、重点支援分野であるヘルスケア分野において、(株)ジャクエツ様より、2024年度グッドデザイン大賞を受賞した「RESILIENCE PLAYGROUNDプロジェクト」について、(株)ホソダSHC様より「医療従事者向け手技練習キットおよび機能性天然物」について紹介いただきました。(国研)産業技術総合研究所様からは、ウェアラブル関連の技術開発、衛星データ解析の応用研究について講演いただきました。

●記念技術展～一歩先を見据えた技術開発～

福井県工業センターの一般公開に合わせて、11県内企業・機関の新たな技術開発や取り組み等について展示しました。実際の製品やサンプルも展示し、多くの方にご来場、ご覧いただきました。

企業名	出展品
セーレン(株)	超小型人工衛星モックアップ品
(株)ネスティ	衛星画像利用システム「Gスペース」
(株)ジャクエツ	障害の有無に関わらず誰もが遊ぶことができる遊具
(株)ホソダ SHC	機能性天然物開発によるヘルスケア事業
フクビ化学工業(株)	炭素繊維複合Toughsite ータフジッター
(株)ニットク	モーター用軽量高強度リング
(株)ウノコーポレーション	ロボットシステム
(株)アフレル	工場・医療機関への搬送ロボット適用支援プログラム
サステナテック(株)	超臨界染色加工技術と染色試験機「SustainaDye-Mini」
(株)八木熊	マテリアル・リサイクル推進のためのアップサイクル技術
(国研)産業技術総合研究所 北陸デジタルものづくりセンター	産業技術総合研究所の最新の研究開発紹介



記念講演会



記念技術展

FOIPでは、今後も県内企業の新分野展開、新事業創出を支援していきます。

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター オープンイノベーション推進部 プロジェクト推進室
TEL：0776-55-1555 (担当：嶋田、三谷)



GOOD DESIGN

第62回

福井県のグッドデザインを紹介
グッドデザインシンキング

2024 グッドデザイン賞



ワイン/ワインボトル

SIX THREE ESTATE ECHIZEN / エイティーンスコーポレーション株式会社

福井でのワイン開発と地元のワイン文化の創生を掲げ自社農場での葡萄栽培、醸造を開始。陶器によるワイン熟成の研究も進める。質の高い葡萄ができ、破格のワインが醸造されたことを機に、農場近隣の日本六大古窯の一つ越前焼とコラボ。葡萄栽培と同質の土で焼かれたボトルで瓶内熟成、味わい深いワインとそれに匹敵するワインボトルを開発した。

ワインボトルの形状は大きく分けて、いかり肩のボルドー型となで肩のブルゴーニュ型に分類できる。この形の違いは澱(おり)と関係が深く、ボルドーは肩部分に澱を止めグラスに入らないよう、ブルゴーニュは充填前に取り除くため澱に対する配慮が不要で形の違いの要因となっている。双方とも回転体で、ワインの充填、打栓などの工程において注ぎ口が中心にあることにより大量生産を可能に。今回デザインしたボトルは少量生産で形の制約は少なく、生産性よりサーブ時の所作の美しさに重きを置いたデザインにしたいという思いがあった。注ぎ口のストレート部分を下にサーブ時に澱が入らないよう、ゆっくり丁寧に注ぐ必要がある。自然と注ぐ姿は日本人の所作の美しさを表現することができる。また、通常のワインはラベル位置がサーブ時のマナーに影響するが、このボトルは形そのもので正面を示しているため、あえてラベルを省いた。

【審査委員の評価】

一度見たら忘れられない個性的なカタチ。思わず手に取りたくなる存在感。ワイナリーの信念を形にしたような美しいボトルの形状は、注ぎ方や置き方などの所作にまで影響を与えるデザインとなっている。土壌や風土が果実やワインを育むとしたら、このボトルはまさに越前という土地が生み出したものであろう。ラベルレスや量り売りなどの持続可能なシステムが、越前焼きという長く愛されてきた工芸と重なることで、これまでにない新たなワイン文化を作り出せる可能性を秘めている。まさに越前伝統工芸を集結させたデザインである。

健康経営に取り組んで、 知事賞などの受賞を目指しませんか！

県では、健康経営の普及啓発に取り組んでおり、働き盛り世代の健康づくりを応援するため、従業員等の健康づくりに取り組む事業所を「ふくい健康づくり実践事業所」として認定しています。健康経営は企業の生産性向上にもつながることから業績向上が期待できるだけでなく、認定により人材確保等で事業所のアピールも可能となります！

さらに、ふくい健康づくり実践事業所のうち、特に優秀な取り組みを行い、他事業所の模範となる事業所には「知事賞」などを授与しております。3月に予定している表彰式では、自社の取り組みをアピールできる場も設けておりますので、積極的なご応募をお待ちしております。

応募要件 ふくい健康づくり実践事業所(表彰応募と同時に申請書を提出した事業所を含む)で、表彰式(令和8年3月予定)において取り組みを発表できる事業所

募集期間 令和7年10月31日(金)まで

応募方法 「ふくい健康づくり応援サイト」(下記の二次元コード参照)に掲載の「様式5 表彰応募書類」を県健康政策課へ提出

※認定と同時に表彰応募をする事業所は、「様式1 認定申請書」「様式2 誓約書」もあわせて提出してください。



表彰応募の詳細はこちら▲

お問い合わせ先

福井県健康福祉部健康医療局 健康政策課健康長寿グループ
TEL : 0776-20-0352

県立図書館の「電子書籍サービス」 御利用ください。

県立図書館は、御自身のスマートフォンやタブレット、パソコンで本文を読むことが出来る「電子書籍サービス」を開始しました。インターネット環境があれば利用できますので、これまで開館時間内に図書館に行くことが難しかった方も、24時間365日、本を利用することができるようになります。

また電子書籍には、本の内容をキーワード検索できたり、文字を拡大して読めたりするなど、紙の本にはないメリットも！

電子書籍の利用には、県立図書館の利用カードとパスワードの登録が必要です(マイページの登録)。利用申請は、オンラインで出来ますので、これを機会にぜひ御利用ください。



図書館にふくむ

登録可能な方 福井県内に在住・在勤・在学のかた



電子書籍利用案内



オンライン利用登録

お問い合わせ先

福井県立図書館
TEL : 0776-33-8860

本誌「F-ACT(ファクト)」を活用してPRしよう！

企業情報メール便

販路開拓のチャンス！
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便(チラシ同封サービス)を毎号実施しております。配送先は、県内事業所約1,800社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか？



●次回VOL.74
11月25日発行予定

提出締切：発行日の10日前まで
チラシ1,800部をご提出
(持参または配送)ください。

同封するチラシ・パンフレットのサイズ		料金(税込)
料 金	A4判以下のチラシ	9,900円
	A4判超～A3判以下のチラシ (二つ折にしてA4判以下のサイズにすること)	13,200円
	A4判以下のパンフレット (10ページ程度まで)	16,500円

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

ご利用を検討する方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。
1号につき10者程度受け付けております。
なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター One to Oneサービス推進部 F-ACT担当
TEL : 0776-67-7425 E-mail : kouhou-g@fisc.jp

本誌に関するお問い合わせは



公益財団法人 ふくい産業支援センター

One to Oneサービス推進部

TEL : 0776-67-7425 / E-mail : kouhou-g@fisc.jp

〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16(福井県産業情報センタービル内)

編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。

本号では、毎年恒例のKUMANDOイベント号として、DXに取り組む事業者様やイベント講演者様に取材してまいりました。目まぐるしくデジタルツールが発展し、AI技術やノーコードツールなどが浸透してきた現在ではDXが周囲を見つめ直す機会になるのではないかと、今回の取材をとおして気づきました。

取材にご協力いただいた皆様、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

また、今年度のKUMANDOイベントは「クマンドウ デジタルアライブ2025」と題して、9月25日～28日にかけて開催いたします。企業様向けやお子さん向けなど日ごとにテーマを設けて各種イベントを実施しますので、当イベントが新たな発見や気づきにつながれば幸いです。

次号の発行は11月25日です。引き続きご愛読のほど、お願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまで
E-mail : kouhou-g@fisc.jp

支援機関と連携した充実のサービス 中小企業の発展を支援します!



中小企業の未来を支える、知識と情熱の結集

中小企業診断士は経営コンサルティングの唯一の国家資格です。福井県中小企業診断士協会は、中小企業の経営を支援・成長を促進する専門家として活動する中小企業診断士のネットワークで、地元の支援機関・金融機関・自治体と連携し、幅広い知識や能力を活用することで、中小企業の未来を支えています。

中小企業診断士協会は**経営の総合病院**
様々な分野の専門家集団が
全力でサポートします。

こんなお悩みやご相談に

経営全般	財務改善	生産性向上
経営戦略	販路開拓	IT・DX戦略
人事労務	補助金	事業計画

☎ コンサルティングのご相談

お電話・メール・ホームページよりご連絡いただくか、下記連携先機関へご相談ください。



一般社団法人
福井県中小企業診断士協会

〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 福井県産業情報センタービル3F
FAX.0776-67-7429

☎ 0776-68-0170 ■平日 9:00-17:00
✉ info@sindan-fukui.jp



福井県中小企業診断士協会

ホームページはこちら

連携先

福井銀行／福邦銀行／福井信用金庫／越前信用金庫／敦賀信用金庫／小浜信用金庫／福井県内各商工会議所／ふくい産業支援センター／福井県信用保証協会／福井県商工会連合会／福井県内各商工会